

## 先ず、石を取りのけよう

教団代表 内山 勝



「その石を取りのけなさい。」……『信じるなら神の栄光を見る、とあなたに言ったではありませんか。』そこで、彼らは石を取りのけた。」

（ヨハネの福音書二一章39～41節）

復活の主の御名を崇めます。

主イエスは、私たちの罪の身代わりに十字架で死なされたのではなく、私たちにいのちを与えるために、死を打ち破り、墓から甦ってくださいました。イエスは、今日も生きておられます。そして、私たちと共におられ、私たちを導いてくださいます。イエスこそ、私たちの主です。

これが私たちの信仰告白であるだけではなく、日常生活の只中での事実となることがたいせつです。

「主よ、もう臭くなっています。四日になりますから。」（39）

マルタやマリヤの悲しい体験が、じつは、私たちの人生においても起こっています。あんなに祈ったのに、主は助けてくださらなかった。もう手遅れだ。何でもっと早く御手を動かしてくださいらなかったのか。そう主に申し上げたい時があるのではないのでしょうか。

ところが、イエスは不思議なことを言われます。「あなたの兄弟はよみがえります。」「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は死んでも生きるのであります。まだ手遅れではありません。大丈夫です。主は、私たちにもそう言ってくださいます。」

さらに、「その石を取りのけなさい」とも言われます。

主にとって問題だったのは、ラザロが死んで四日経ったことではなく、「その石」でした。石は墓の前にありましたが、同時に、私たちの心にもあります。

主がせっかく手を差し伸べてくださっているのに、すなおに信頼して心を開くのを妨げようとする石。それが、私たちの内にある不信仰です。

いま直面しているいろいろな問題が、じつは真の問題ではなく、「信じます」と口で告白しながら、実際には、妨げの石を取りのけようとしなない不信仰、あきらめが、私たちの最大の問題ではないのでしょうか。

幸いなことに、彼らは石を取りのけました。これこそ、真の悔い改めです。マルタが一人で石を取りのけたのではなく、そこにいた人々皆で取りのけました。教会がしなければならぬのは、他人の不信仰を責めることではなく、皆で悔い改めて、主イエスへの失望や疑いという重い石を、取りのけることです。牧師と信徒の協力はそこから始まるのではないのでしょうか。

そうすれば、「信じるなら神の栄光を見る、とあなたに言ったではありませんか。」という主のお約束は必ず実現すると、私は信じます。向こう三年間、この信仰で進んでまいりましょう。始動した教団運営委員会に、あなたも祈りで参加してくださいませんか。

\*

3月の年会合同礼拝では、企画から会場の下見、当日の運営に至るまで、すべて信徒の皆さまが担ってくださいました。ご愛労に心からの感謝を申し上げます。

### 目次

- 先ず、石を取りのけよう……内山 勝……1
- 第21次総会報告、新教団運営委員紹介……2
- 第73次年会報告、全国青年大会報告……3
- 海外トピックス、国内教会局、聖化フォーラム……4
- 合同礼拝新代表説教、信徒局紹介、卒業式……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～11
- 公報、消息……12

# Immanuel

第21次教団総会 3月2日に開催

# 信徒局の創設を決議 信徒・教職の協労を深め 困難克服の手立てとして

富士見台教会 野田 禎

3月3日(土)、お茶の水OCCビル・チャペルにおいて、第21次教団総会が開催されました。総会代議員全員が参集、ひむなる150番、「主よあなたのみ思いを」の賛美をもって開会礼拝が始まり、良き心備えとなりました。

内山勝先生のメッセージでは、ローマ人への手紙「二章1、2節が開かれ、特に「神のみこころは何か、すなわち、何が良いことか、神に喜ばれ、完全であるかを見分けるようになります」のこぼを、中心に語られました。

「この総会において、新しい方向性が決まり、また新代表が選ばれるという中、私たちが切に求めるべきことは、一体何か、それは神のみこころは何かを求める信仰である。そのためには自らを神に喜ばれる、生ける聖なる献げ物として献げ、真実な信仰者の祈りをしよう」とのお勧めがあり、一同献身を新たにしました。



勝間田充夫師の祈禱によって開会礼拝は締めくくられました。総会の議事に移り、条例改正では教職と信徒の協労として、信徒教団運営委員は役職をもって運営委員会に加わることとなりました。積極的な質疑応答があり、先に提出された改正案が承認されました。その後、第20次総会期3年間の報告と質疑応答がありました。神さまの恵みの数々を顧みる時となり、報告が承認されました。

その後、いよいよ、代表選挙。祈りのうちに肅々と総会代議員による投票が行われ、選挙管理委員長松井元始師より「有効投票数61票のうち、内山勝師が過半数を獲得したので、内山勝師が新代表となりました」との報告がありました。神さまが私たちに備えてくださった新代表として、直ちに代表按手式が行われました(写真下)。

その後、新代表により局長等選

考委員会の委員4人が指名され、審議の後、教団運営委員会の14名が発表されました。また常置委員会責任役員も発表されました。

閉会礼拝は、藤本満前代表。士師記六章11節から、(1)自分が置かれている状況を嘆く姿。(2)自分の力量不足を嘆く姿。(3)神の言葉にしたがって、父のバアルを切り倒し、自分の内にある不安を取り、神に信頼する、真実な礼拝者の姿が語られました。13節には、かつて先祖に神がなされた大いなることについて書かれています。イムマヌエル教団においてもかつて神がなして下さったが、神さまは今、私たちに「その力で行け」と仰るとの力強い励ましでした。

総会において、2期6年の長きにわたり教団を導かれた藤本満先生と、総会期に労してくださいました執行部の皆さんにあふれるばかりの感謝の拍手がありました。

## 新教団運営委員 14名紹介

# 代表を中心に力を合わせ 新たなチームの発足

総務局長 寺村秀嗣

総会で選ばれた新教団運営委員を紹介いたします。新代表は内山勝師です。旧運営委員会では国内教会局長の任を担ってききました。教団全体の指導責任を担います。

国内教会局長の岩上祝仁師はこれまで南日本B Aでしたが、全教会をサポートする任を担います。

世界宣教局長の梅田登志枝師は留任です。引き続き海外宣教をサポートいたします。

教育局長の小川宣嗣師は新任です。牧師の生涯学習、信徒教育、eラーニング、青年活動全般をサポートいたします。新設された信徒局の局長、斎藤純雄兄(深川教会)は今春BTCでの学びを終了しての就任です。

全国教会のご理解とご協力のもとに、牧師と信徒の協働で、壮年部女性部活動をサポートしていきます。聖宣神学院院長の河村從彦師は留任です。引き続き牧師育成に取り組みます。

北日本B A川嶋直行師は留任です。国内局直轄となった北海道

地区(旧教区)の担当となります。関東南B A田中進師は西日本B Aから、中部B A葛田崇志師は関東南B Aからそれぞれ異動となり、各ブロックを担当します。西日本B Aの大兼久芳規師は新任です。区割り変更により、近畿教区と四国教区となります。国内局直轄となる沖縄地区(旧教区)を担当します。南日本B Aの阪下謙師は新任です。区割り変更により、中国教区と北九州教区、南九州教区を担当します。



女性牧師部部長の黛睦子師は留任です。女性牧師のサポートを担当します。信徒委員の中山朝雄兄(中目黒教会)は新任です。総務局長寺村秀嗣、信徒局局長としてサポートします。

総務局長の寺村秀嗣は新任です。教団事務全般の責任を担います。

新たに発足した運営委員会のためにお祈りください。

第73次年会報告……

# 教団間協力の結実 困難な時にこそ輝く



仙台教会 細田恒太郎

お茶の水にあるOCCビルのチャペルにおいて第73次年会が3月5日から6日にかけて持たれました。2日前の総会で立てられた新しい教団運営委員会が年会を導きました。年会に向け準備する時間がほとんどない中にも主の豊かな祝福が注がれ、2日間にわたる議事会、聖会は厳しい現実を直視しつつもチャレンジと恵みに満ちた時となりました。

一日目、午前の議事会においては、阪下謙師がイザヤ三〇章18節より恵もうと待っておられる神が知られると語ってください、これから始まる年会に期待を寄せてスタートいたしました。議事会では、昨年の活動報告がなされ、牧師不足の中、かねてから推進されてきた牧師と信徒との協力が更に具体的な形として進められていること、また教団間協力が地域教会において進められていることが報告されました。また昨年からの協力牧師として奉仕して下さっているシオ



ン沼津教会の荻野倍弘師、金沢教会の土屋繁牧師が年会に来てくださり、その尊いご奉仕に感謝して歓迎の時が持たれました。

午後の議事会では、大兼久芳規師が詩篇六三篇1〜8節から荒野にいたダビデが信仰的には最も充実していた姿から、私たちが環境的には厳しい荒野に置かれていても、信仰まで荒野である必要はないと語ってください、新年度の方針発表に備えて下さいました。午後の議事会で特筆すべきは、先の総会で新しく信徒局が創設され、局長になられた斎藤純雄兄(深川教会)からご挨拶を頂いたことでしょう。今後、ますます牧師と信徒が手を携え、協力の働きが進められることが期待されました。

夜の聖会Iでは、神学院卒業生2名の証がなされ、岩上祝仁師より使徒一章19〜26節からステパノの殉教から起こった迫害という

危機の時代、伝道の困難な時代に共にみことばを伝えた人々がいたこと、ユダヤ人しか伝道の方向が向けられなかった中で、殻を破ってギリシャ語を話す異邦人に福音を伝えた人々がいたことなどを取り上げながら、私たちがまた危機の時代、神によってここに置かれていたことを意識し、どこまでも聖霊の力に信仰を働かせ福音を伝えようと語られました。

翌日の聖会IIでは、卒業生1名の証しをなされ、梅田登志枝師からエゼキエル四七章1〜12節より神殿から流れ出る水の幻を通して、厳しく困難な状況の中でも、神には希望があること、聖霊が働かれる時そこが生命溢れる場所に変えられることが力強く語られました。続いて6名の先生方の教職按手式と任命式が持たれ、それぞれ献身を新たに主から受けた任地へと遣わされました。

## 3月4日 全国青年大会報告

### チャレンジングな大会

# つながろう ともに主の愛に 「わたしの民」は誰?

佐賀教会 阪下 謙

3月4日、聖日の午後、合同礼拝に引き続き、多くの参加者とともに幸いな全国青年大会が持たれました。

この青年大会は、計画の段階から青年たちが主体となって計画・立案・企画したもので、讚美の奉仕、アイスブレイクの楽しい時間など、非常に明るく楽しく進められました。また、神学生の峯尾仰生兄と板橋教会員の寺村恵理加姉がお証しをされました。お二人の自分と真剣に向き合いながら、真実に神さまを求める姿に感銘を受けました。主は一人ひとりに語りかけ、育ててられるお方であることを実感し、御名を崇めました。

その後、KGK総主事である大嶋重徳先生より、使徒の働き一八章1〜11節より「つながろう」ともに主の愛に」というテーマでメッセージが取り次がれました。

特に、11節の「この町には、わたしの民がたくさんいるから」という聖句を通して、主は未だ救わ

れていない人々を「わたしの民」と語り、愛してください、と、そして、救霊の重荷を私たちと分かち合ってください、ことを熱く語られました。その中で、また救われていない大嶋先生のお父さまに対する救霊への熱意、重荷に胸に迫るものがありました。

最後に、あなたにとって主が語られる「わたしの民」とは誰なのか?とチャレンジに満ちた問いかけがなされ、家族のため、心にかかる友のためにそれぞれが祈る時を持ち、メッセージは閉じられました。献身の思いを新たにするとともに、この中から「わたしの民」のために立ち上がる人々が起こされるようにと心から祈らされる集会でした。



合同礼拝・全国青年大会開催のために多大な犠牲を払って支えてくださった信徒の方々、青年たちに心から感謝いたします。

国内教会局から

教会建設の務めに  
第73次年会を越えて

日程の詰まった年会を越えて私たちが任地に遣わされました。新たに使命と幻を頂いて踏み出したお互いです。祷告課題や思索の題材も年会から持ち帰りました。その一つは牧師と信徒の協



年とみに謳われるようになってきましたが、教団発足当初より語られ実践されてきたこと、さらにさかのぼれば新約時代の教会に既にその姿を見ることが出来ます。今年には新たに信徒局が誕生し、私たちの群れも新しい次元に踏み込みました。このことは様々な形で地域教会での協労にも光を当てることでしょうか。大胆かつ丁

寧に取り組みましよう。「義の栄冠」を待ち望むパウロは、オネシポロをはじめ同労の信徒たちにも同じ報酬があることを知っていました(Ⅱテモテ)、記録されている最初の殉教者ヤコブと同時期に信徒の代表ステパノを殉教に追いやった本人でもありません(使徒八)。十字架も報酬も共に分かち合う協労となります。

「ピリー・グラハム牧師葬儀にトランプ大統領など2千人出席」  
99歳で死去したピリー・グラハム牧師の葬儀が3月2日、米ノースカロライナ州シャーロットのピリー・グラハム図書館の外に設置された約2600㎡の白いテントで執り行われた。これは1949年にグラハム牧師が、ロサンゼルスでテントを張って開いた復興集会を記憶するため。生前、死の意味について、「天国に居住地を移すことだ」と語ってきたグラハム牧師は同日、図書館の隣の追悼庭園のルース夫人の隣に埋葬された。墓石には、「Preacher of the Lord Jesus Christ」(主イエス・キリストの福音伝道者)とあった。葬儀には、トランプ大統領とペンス副大統領夫妻、ジュリアーニ元ニューヨーク市長をはじめ政界関係者など約2千人の弔問者が出席。福音派のリック・ウォレン牧師は、「二十世紀の最も偉大なクリスチャンだった。最も偉大なク

は、牧会生活の間、いかなるスキヤンダルもなかったこと」と述べた。葬儀は、政治色を排除した純粹な追悼行事として行われ、2月28日、グラハム牧師の遺体は、米連邦議会議事堂に7時間安置されて弔問を受けた。宗教指導者の遺体を米議事堂で安置したまま、追悼式を執り行うのは今回が初めて。



海外トピックス

英政府と英国国教会は2月18日、ブロードバンドや携帯電話WiFiの各地での接続性を高めるため、尖塔などの教会施設を利用することで合意した。AFP通信によると、デジタル・文化・メディア・スポーツ相のマット・ハドック氏は今回の合意について、「十五世紀の建物でも英国が未来に適合する助けとなることができる」と意義を強調。英国国教会は教会全体のおよそ65%、さらには1万6千棟の関連施設を地方に有しており、主要なデジタルインフラとして理想的。イングラッド南東部でブロードバンド接続に協力しているステイブン・コックトレル主教は、「特に地方の教会は常にコミュニティの拠点としての役割を担ってきた」と指摘。また、教会が通信接続の向上に寄与することは地方が直面する大きな二つの課題である「孤立化」と「持続可能性」への取り組みにも役立つと強調した。(平瀬聡樹)

日本聖化協力会(JHA)から

第2回聖化フォーラム開催  
宗教改革500年を覚え  
義認と聖化を学ぶ

王子教会 小林 佳

時間をもたれましたが、数多くの質問が挙げられ、とても有意義な学びのひと時となりました。なお、今回はお二人の先生方から発題・講演をいただきましたが、どちらの先生方も「瞬時的なきよめ」についての重要性を説いておられたことは大変印象的でした。また午後に行われた評議員会の中でも、この点について改めて深く取り組んでいくことの大切さが語られました。

3月12日(月) 10時から12時まで、昨年に引き続き「聖化フォーラム」がもたれました。昨年同様、日本聖化協力会に属する教団の各神学校の聖化に関する授業のプログラムについて話し合われましたが、今回はよりオープンな講演会形式をとり、御茶ノ水クリスチャンセンター8階チャペルをお借りしての開催となりました。午後にはJHA評議員会が開催されることもあり、首都圏のみならず、全国各地から多くの方々が集っておられました。

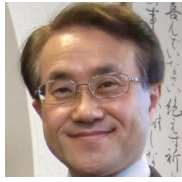
この「聖化フォーラム」は、各教団の「聖化の恵み」に関する理解をお互いに深めていくこと、そしてそれぞれの立場を大切にしながらも、各教団・神学校で使えるような聖化に関するテキストを作成することが出来たら、という目的で開かれるようになりました。あらゆる面において「協力」が求められているこの時代、この働きが尚主に在って祝されますようお祈りくだされば幸いです。





巻頭言

できるならというのか



世界宣教局 野田 禎

年を越えて、新しい歩み出しとなつていきます。私は、新改訳2017を手にしてから、初めて聖書を手にするような思いで、音読しています。先日、マルコの福音書九章24節を読んでいるときに、



広げた翼

Immanuel His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

学生時代に聞いたメッセージの聲が響いて来ました。その声は今年引退された熊谷邦男先生のもので、一人旅の途中、ちょうど日曜日が広島でしたので、開拓まもなくの広島教会に行きました。窓の外にはまだ青い稲穂が広がっていたと思います。少し早く到着したので、教会学校に参加しました。そのとき、熊谷先生は三脚にボードをつけて、絵を貼りながら、イエスさまと父親のやりとりを、熱心に語ってくださいました。悪霊につかれた息子を直してもらおうと、父親がイエスさまのお弟子さんの所に連れてきたのですが、弟子たちは霊を追い出すことができなかったので、子どもとともにイエスさまのところに来たのです。父

は言います。「おできになるなら、私たちをあわれんでお助けください」イエスさまはすかさず「できるならと言うのですか。信じる者にはどんなことでもできるのです」と仰るのです。父親ははっと自分の不信仰に気がついて「信じます。不信仰な私をお助けください」と言います。熊谷先生はそのとき仰いました。「皆さん、どうせダメだと思っけど、まあ、イエス様にお願ひしておこうかな」と思ってしまう事はありませんか。イエスさまに「信じます。不信仰な私をお助けください」と言ってお祈りしましょう。ちょうどそのころ、私は将来献身を考えていたときでした。「私が献身？ 牧師になれるのだろうか。その務めを果たせるだろうか」。イエスさまは熊谷先生を通して「信じる者にはどんなことでもできる」と語ってくださいました。福音宣教には喜びも困難もあります。「大丈夫だろうか」という不安がやってくる時、導きを求められているときに、「信じます」と神様を信頼することができます。きっと神さまはみこころの道を開いてくださいます。全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を伝えて行く時に必要なもの、それは、神さまへの信頼と、救霊の情熱と愛でしょう。「信じます。不信仰な私をお助けください」今も響いています。宣教が前進するために続く牧師、宣教師が興されるようにお祈りしましょう。



KENYA

ケニア・テヌウェク

葛田就子\*2018年3月8日

2月9日夜9時頃、ただならぬ様子の叫び声が聞こえてきました。最初はICUか小児科で患者さんを亡くされたご家族の泣き声かと思っただけですが、ただならぬ様子が続き、他の叫び声も聞こえるので、テロ？強盗？それとも精神的に不安定な患者さんが周囲に危害を？等考えながら主任室を出た所で「ファイアー！」と言いながらスタッフ走り去るのが聞こえました。火事と分かったので主任室入口の消火器を他のスタッフの助けも借りて壁から外し、手術室の外に出ると、すでに集まった人々が見ていた先の病院のレストランから火の手が上がっていました。周囲の手術室のスタッフに、手術室内の消火器を持ってくるように声をかけながら自分もレストランの方角へ移動、レストラン入り口には既に使用された消火器が転がっていました。自分も消火しようとして近づきましたが、炎の熱を感じ、入り口の天井からも這うように炎

が噴き出しはじめました。急いで後退し、手術室の近くに戻って外壁にある比較的近くの3つのホースを引き出しつつ、スタッフに「とにかくバケツを持ってきて」と指示し、バケツに水を汲み始めました。しかし屋根の上に炎がまわっていて、これはもう素人の域を越えてしまったと感じました。火の手があがったレストランの階下には滅菌室があつて、そこを出入りしていたスタッフの安否確認が必要でした。スタッフから電話を渡してもらい、滅菌室担当のスタッフの名前を聞き、安否の確認を始めました。結果、夜勤の2人のスタッフと、洗濯室の1人のスタッフはケガもなく、無事でした。火がおこった時、彼らはチャイ(お茶)の時間で、彼らが第一発見者です。滅菌室のレストラン直下の部分の天井は壊されて水がかけられており、手術室に使うリネン類は泥だらけ、しかし少し離れた所に設置されていた高圧蒸気滅菌機(オートクレーブ)は一応無事、少し離れた小部屋の既に滅菌された物の保管室も無事でした。一方、火事場泥棒の報告も耳にしました。心臓外科手術は、現在、再開されています。当初、滅菌室が使えず他の病院に手術用のセットを搬送して滅菌してもらっていましたが、今は、多くの支援によって滅菌の行程も稼働し始めました。世界中から、また日本からのお祈りを感謝します。被害を受けた



のはレストラン、統計室、社会福祉室、外傷病棟、滅菌室、洗濯室、裁縫室で、保管されていた研究資料、出生証明書、などなど多くの記録が失われました。年間10万人近くの外来患者、5千人以上の手術患者のカルテを失いました。業務で様々な支障が出ており、スタッフの心労もピークに達しています。今後の復旧のため、続いております。お祈りを宜しくお願い致します。

先日、日本の中高の海外への修学旅行の行き先で、近年、台湾が増加傾向にあるというニュースを耳にし、ますます日台の親交が深まっていることを痛感しています。この年も、すでに日本からいろいろな形で、皆様をお迎えする機会が与えられますことを心より感謝しつつ、楽しみにしております。

いつも背後にありまして尊いお祈りと温かいご支援をありがとうございます。特に、今月は総会・年会の出席の機会が与えられ、多くの諸先生方、主にある愛兄弟方にお会いし、恵みを分かち合い、祈りを共有できましたことを心から感謝しております。



**TAIWAN**

**台湾**

平瀬義樹・光世\*2018年3月2日



2月の半ばには、春節のお休みを迎えました。今年は、15日〜20日までの期間で、遅い暦でしたので、休みが明け、新年も本格始動と思いきや、すでに2か月が経過し、3月を迎えるという、この1年の慌しさ(実質10か月しかないという短さ)を痛感しています。学校や会社、工場なども再開され、通常の営みに戻りました。特に、台湾の現地の学校では、後期の始まりで、受験生にとっては勝負の数ヶ月となります。

3月、台湾の現地校では6月の卒業、学年度の締め括りに向かっての後期の歩みですが、台中の邦人社会・日本人学校では、人事異動、3学期の締め括りの時期です。今年も、ジョイジョイクラブに在籍の子家庭が何組か帰国されます。3年単位で迎えては送り出すという流れも、近年は1から2年という短いサイクルが変わってきました。

イースターを出発点とした4月、復活の主が宣教の主として私のような乏しい僕すら派遣し、しかも送り放しでなく、生ける主としてご同行くださっています。恵みを深く思い巡らしております。ともあれ、背後の執成しのお祈りにより支えられております身であることが健康を打たれたことにより益々確かな自覚とされ感謝申し上げます。今年度の宣教の働きは当初の予定では、4月にカンボジア入りでしたが現地の状況が、教会と牧師館の引越等で受け入れ体制が整わず、現地側にも不自由な生活を強いることが見えてきたため、彼らの示唆で5月に2週間だけ滞在して活動の様子を見てくる旅に変更しました。スカイプでの連絡が可能な便利な時代、離れていても宣教活動は変わらず続けられる時代となりましたことを改めて思うことです。主の導きを確かめることを心し、祈りつつ導き給う主により頼んで参ります。



**CAMBODIA**

**カンボジア**

蔦田緑乃\*2018年3月6日



今年も米国からのチームが伝道者のためのセミナーを開くべく派遣された感謝でした。写真は84歳で尚、毎年KCCの重荷を担ってセミナーを開いてくださるチャック先生です。将来は日本からもこうした器方が派遣されての宣教活動が可能とされますように願っています。今月のご報告と感謝と致します。

で続けてお祈りください。ヴァンデイ先生の開拓教会では近隣の村からの青年達が徐々に教会に根差し始め、受洗候補者も与えられているとの報告に感謝しつつ、本物の回心者として受洗するようにとお祈りしております。もう一つの感謝な報告は、建設中の本部・宣教師館が超スピードで進んでいるようで、今年の9月には完成するという知らせでした。特に案じておりますことは、工事を急ぐあまり、手抜き工事がされないように度々、視察に通つてくださることをお願いしております。



# ザンビア

根廻恵子\*2018年3月6日

2月は雨が連日降る日々で始まり、土で舗装されている道路は荒れに荒れてデコボコの状態です。今月はスタップ不足となる日々が続きました。2人が学校に行き始めたこと、1人が長期休暇、コレラで延期されていた研修が立て続けに開催され何人かのスタップがそれに駆り出されたことが一度に重なり、クリニックに残るスタップは少数で、何とかシフト調整しながら乗り切りました。そのような状態でしたが、雨のおかげもあり、外来患者は少ない日々が多くなり助かりました。それでも、お産のケースは普通にくるので、呼び出しが夜に何度かありました。正常逸脱するケースがいくつかありましたが、母子ともに良好で退院することが許され感謝でした。

2月9日にクリニックスタップの看護師・助産師免許の申請のためにルサカに出ました。看護師の友人が同行してくださいました。彼女が申請している間に他の用事

をすませるといふ計画をしていきました。渋滞に捕まらないように早朝にジェンボを出発したのですが、雨と道路の悪さで遅れが出てルサカに着いた時には見事に渋滞にはまってしまいました。渋滞の中、しばらく進んでから何か異様な匂いがし始め、車から煙が出ているのが見え、とりあえず目的地の看護協会には近かったのですが、目的地まで行きました。そこに着いた際に、通りかかった看護協会の機械技師が見てくださり、クラッチプレートに問題があると言われ、簡易的に見てくださいました。渋滞で半クラッチが続くクラッチプレートがダメージを受けてしまい、平らな道路は走れるけれど、ジェンボまでの上り下りがある道では、ジェンボには到着できないと言われ修理が必要でした。急なことでしたが、彼が政府も利用しているという修理工場を紹介してください、近くでもあったため、彼がそこまで連れて行ってくださいました。雨の中の作業でしたが、部品の調達もザンビアのトヨタ社から取り寄せることができ、作業に取り掛かることができました。結局1日この修理のため費やすこととなり、他のことはできませんでしたが、無事に修理ができ、日を越してのジェンボ到着でしたが、事故なく守られましたこと本当に感謝でした。お祈りいただいていた以前の車の売買ですが、2月下旬に支払いが終わり、車を買手に渡すことができました。■



# ZAMBIA

# ザンビア

富澤 香\*2018年3月6日

皆さまのお祈りに支えられ、15教会の巡回が許され、終了することができました。お祈りくださっている皆さまとお会いできること、日本で神様の恵みをお分かちできること、皆さまと主にある一致とともに、主を讃美できる幸いと喜びを頂きました。沢山の恵みを頂きました。感謝でいっぱいです。

今回の帰国では、東関東聖会、新年聖会、総会、年会と多くの諸集会にも出席させて頂き感謝でした。任命式では、改めて襟を正して応答させて頂きました。また帰国から国光先生、長谷先生、江藤先生をお送りし、叔母も送ることになりました。そして兄の病、そして手術、従妹の手術など様々なことがあった今回の帰国でした。

4月16日に梅田登志枝局長とともに日本を出発し、ケニアを経由し、ザンビアに入ります。旅路と新しい働き、宣教師館プロジェクトのために続けてお祈りを宜しくお願いいたします。■

- 会計報告2月分  
宣教師金 一、二二三、二五五円  
月平均 一、九六〇、五八八円
- お祈りの課題
- ケニア(鳥田就子)  
◆スタップ、患者のいのちが奇跡的に守られたことへの感謝
- ◆火災からの復旧のため。レストラン、統計室、社会福祉室、外傷病棟、滅菌室、洗濯室、裁縫室、また保管されていた研究資料、出生証明書、カルテなど多くの記録が失われました
- ◆スタップのため。心労もピークに達しています
- 台湾(平瀬)  
◆新来会者、再来会者が継続来会者となるように
- ◆二つの学制が共存する歩みのため。台湾では、後期の開始、邦人社会は学年度末です
- ◆私たち宣教師家族の健康と生活のみ守りのため。子どもたちの学びと将来のため
- ◆複雑な国際社会情勢の中、台湾の政治や経済、治安が安定するように
- 香港(鹿島)  
◆牧師達の年会後の働きのため
- ◆今年のイースターの恵みに教会員一同が預かれますように
- ◆日中関係が平和のうちに保たれますように
- フィリピン(豊田)  
◆地域教会でインターンシップ中の四年生のために。あらゆる誘惑から守られ、教会を建て上げる喜びを体験できるように

- ◆事故、事件、怪我、過ち、災害から家族が守られますように。子どもたちの学びのため
- カンボジア(鳥田緑乃)  
◆新しい場所に引越したヴァンデイ先生の開拓教会に更なる御霊の働きによる救霊の業を
- ◆建設中のKCC本部と宣教師館の無事完成と共にヴァンデイ先生の奥様の働き場に主の導きと、ヴァンデイ先生の働きが妨げられずに前進するため
- ◆5月の宣教旅行の予定のため(5月4〜11日)ニブシップ新チャペル献堂式の出席。5月18〜6月1日カンボジア宣教旅行)
- ザンビア(根廻)  
◆スタップ不足の中でも事故なく守られるように
- ◆イエスキリストの証者として生活できるように
- ◆事故過ちから守られるように
- ザンビア(富澤)  
◆再赴任が迫っています。今後の行く末も含めて、良き導きを与えられますように
- グローバル・ユース・ミニストリー(鳥田康毅・由理)  
◆新しい働きに進む私たちに信仰と聖霊の満ちが絶えず与えられ続けるように
- ◆在日外国語教会との良い関係が築けるように
- ◆宣教活動の拠点となる建物の建設が予定通りに進むように。良い拠点が与えられるように



# 聖宣神学院報



## Immanuel Bible Training College

### 初心忘るべからず

院長 ● 河村 從彦

「初めの愛」(黙示二・4)

ある書に標題のことはが出てきました。弁護士をしてもらったご高齢の女性の方です。なるほどと思つたのは、この「初心」の意味がただしく理解されていないという点でした。「それをはじめ頃の気持ち」の意味で使われることが多いようですが、そうではなく、「未熟な自分に戻る」というとらえ方が正しいのではないかと。そうかもしれないと納得しました。特に「自分のなかに居座り続けた未熟さの自覚」という表現に心ひかれました。

私にとって「未熟さ」とは何だったのか。聖書や神学の知識が足りなかつたこと、牧会スキルが稚拙だったこと、人間理解の幼稚さ、これらもすべて含まれます。しかし、それだけではありません。

「自分が出来ていないのに」という言い方をするところがあります。この言い方は、実は福音とは馴染みません。どこか不寛容で、心理的に互いを突つき合っていることを暗に示す表現なのかもしれませんし、未熟さを克服することこそ良いことであるという前提があり、未熟でなくなつたら人のことが指導できるという意識の裏返し

なのかもしれません。この意識があれば、神の国は、結局出来る人間の集団になります。

神さまの働きは人間の頑張りではなく、主が働いてくださればどうにかなる。しかし頑張りだけが問題なら、自分にできないことを神さまに期待するだけの宗教になります。問題は、自己存在の未熟さへの向き合いが希薄な姿にあるのかもしれない。

私にとって「初めの愛」とは何だったのか。弱さや失敗を経験し、ポロポロになつて一人主の前に立つたあの瞬間、自分の罪を知つて主のもとを去ろうとした日にイエスさまと出会つた味わい、そういう「初めの愛」が、「自分のなかに居座り続けた未熟さの自覚」の根底にあるのでしょうか。生涯、「未熟さの自覚」を持つていたいと思います。



卒業式前の奉仕日にご一緒くださった営繕ボランティアの皆さま

### 神学エッセー

## 宗教改革 雑感 ②

### ドイツ語訳聖書を手にして



矢木良雄

宗教改革の理念に「自分で聖書を読み、それを正しく理解し、判断すること」があります。そのためには、人々が自分たちで読める聖書がどうしても必要です。

ヴァルトブルク城でルターが聖書をドイツ語に翻訳したことはよく知られています。2か月半で新約聖書を翻訳しています。すごい集中心力です。ドイツ語訳はルターが最初だったわけではありません。それまで、すでに18のドイツ語聖書があつたと言われます。しかし統一の取れた、すぐれた民衆のドイツ語で新約聖書全体を訳したのは、やはりルターが最初でした。

こうした聖書への熱意は、時代の影響でもありました。ルネサンス人文主義は原点への回帰を訴えます。古典への憧憬が、エラスムスの校訂版ギリシャ語聖書に結実しました。同じ頃の「新しい信心(Devotio moderna)」の運動は、聖書を読むことでキリストの生涯を黙想し、その模範に倣おうというものでした。そのための手引書

がトマス・ア・ケンピス著『キリストにならいて』です。この運動は、聖書への関心を広める役割を果たしました。ルター自身も14歳のころ、マルデブルクの学校で「新しい信心」に触れています。

ヴォルムス帝国議会に召喚されたルターは、そこで皇帝の勅令を受けます。逮捕と著書の発禁処分です。ルターの保護者であつたザクセン選帝侯は、帰路にあつたルターを誘拐という形でヴァルトブルク城に保護します。滞在は10か月ほどでしたが、この機会を捉えてルターは聖書翻訳に集中します。この翻訳はルターの訳ですが、ヴィッテンベルク大学の同僚との議論が下敷きになっていますので、むしろヴィッテンベルク訳と言つたほうが良いのかもしれませんが。ヴァルトブルク城にはルターの使つた部屋が残っています。足台にしていた石臼のようなクジラの背骨が置かれていて、これに足を乗せたルターが目に見えます。



ヴァルトブルク城 ルターの部屋は右側奥

◆新たな学びに取り組み

チャレンジ 主と共に

正規コース 秋田郁美

「見よ。わたしは新しいことを行う。今、それが芽生えている。」

(イザヤ四三・19)

右の表題と聖句は、私の所属する教会の新年度の年間標語と聖句です。教会も新年度から新しい体制になります。主とともに伝道の働きに挑戦していこう、という気持ちがかめられています。

個人的にも私にとって新年度は新たな挑戦の年になります。これまで神学院で聴講生として3年間学んできました。新年度より正規コースに変更して学びを続けます。寮生活もスタートします。神学院は自宅からも通える距離ですが、勉強に集中するために週4日女子寮で生活させていただきます。これまで主婦として家事をしていましたので、家を空けることには不安もありますが、家族の理解のもとに恵まれた環境が与えられることを感謝しています。聴講のゆっくりしたペースとは違って、この1年は授業数も多くなり、課題もこなせるか、心配でもありません。

このように4月からの生活は変

化が多い時となりますが、私はその変化と挑戦を楽しみたいと思っています。4月から新たに4名の方が入学されると聞いております。新しい仲間と共に学ぶことも楽しみです。

3月6日に行われた年会の2日目に出席させていただきました。按手式があり、新代表の内山先生より任地の発表がありました。それぞれの教会が新しいスタートを迎えようとしています。梅田登志枝先生がエゼキエル書四七章からメッセージを語ってくださいました。神殿から流れる命の水とは聖霊であり、私たちのうちに注がれ、私たちを通して自由に働かれます。聖霊の力により頼み、ゆだねていきたいと思えます。主がともにいてくださいます。主とともに新たな道に踏み出します。

◆学び舎を旅立つ日に

神がともにおられ

正規コース 松尾信子

「恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしがあるあなたの神だから。わたしはあなたを強め、あなたを助け、わたしの義の右の手で、あなたを守る。」(イザヤ書四一・10)

神さまは、小さき者の献身に際

し、右記の御言葉(召命の御言葉の二つ)をくださり、今日に至るまで、尽きないあわれみとご寛容の中で、助け導いてくださいました。神学院卒業式の日、ある先生が祈りの中で、「誰よりも召してくださいました主ご自身が、この日を喜んでいらっしやる…」と祈ってくださいました。恐れおおい事であるとともに、この道に呼び、招き、導いてくださった主が喜んで下さる事を感じました。

神学院での学びは、実際の働きをする奉仕(doinig)とともに、自分に向き合い、神さまの御前に出る歩み(being)を大切にすることを教えられた期間でした。「イムヌエル(神がわたしたちとともににおられる)」というみことばを、本当に体験する事は、喜びであり、恵みであります。主の恵みの中で私自身が養われ、扱われ、



卒業式で4人の卒業生を紹介

憩う事によって、その恵みの福音を隣人にお伝えする事ができる幸いをお願いします。

「あなたがたの切り出された岩掘り出された穴を見よ。」とイザヤ書にあるように、御救いを頂き、主にある家族の交わりの中で、ここまで育んで頂いた事を心から感謝しています。また母教会をはじめ、神学院、諸教会の一人お一人にも心から感謝申し上げます。遣わされる場所において、主がともにいてくださる恵みに生かされつつ、その恵みをお分かちする者とならせて頂きたいと願っています。

「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしつかりやりなさい。」(IIテモテ四・2)

◆インターを前にして

新しい環境での学び

正規コース 金成星美

いつも神学生のためにお祈りがありがとうございます。ついに神学生としての歩みも最後の学年が始まるようになっています。2月末に教室での学びが終了し、4月からインターン実習として、前期は東京フリー・メソジスト八王子中野教会、後期はみずほ台教会でのご奉仕をさせていただきます。

1年生から3年生までの教会実習では、出身教会である桜ヶ丘教会での実習でした。そのため、個人的にもよく知り、また逆によく知られてもいるという中でのご奉仕でしたので、故郷にいるような感覚もありました。4月からは環境がガラッと一変し、故郷を離れ新しい気持ちでご奉仕をさせていただきます。新しい環境での新しい関係づくりから始まるインターン実習になると思いますが、卒業を目前とした最後の大切な学びの時としてピシッとして、誠実なご奉仕ができるようにと願っています。

また、この3月から卒業論文への取り組みが始まりました。インターン実習期間に卒論のための学びも進めていく予定です。伝道者は生涯勉強し続けるものだ、と教えていただきましたが、まさに、このインターン中の卒論の学びによって、伝道者としての働きの合間に自分で学ぶ生活というものも体験していきたいと思っています。

\*

「強くあれ。われわれの民のため、われわれの神の町々のために全力を尽くそう。主はみこころにかなうことをされる。」(IIサムエル一〇・12)

これが、私の召命のみことばです。神さまのみこころにあつて、私自身も全力であるだろうかといつも問いながら、インターンの恵みに期待して歩みだしたいと思えます。

### 私の神学生時代 人を漁る者となるために 11期生●折田政博



#### 琉球総福音化の夢

「青年は幻を見、老人は夢を見る」。卒業して56年。琉球の開拓宣教のため、米国軍人4家族の招きに応じて、日本神の教会連盟は私を送りました。在学中に、オスワルド・スミス博士の大会で、中国宣教を示されました。連盟からの使命を受けましたが、沖縄は中国に近いことを示され、米国支配の地へパスポートを持って行くとき、連盟委員長とIGM総理の按手を丸の内教会で受けました。3年目に祈りのうちに幼児教育が示され、敬愛キリスト学園を開園し、多くの家族から入信者も起こされました。東京でのビリー・グラハム大会で葛田二雄先生に再会。ビリー・グラハム先生から、毎日詩篇・箴言を一月で熟読することをお勧められ、実践しました。沖縄聖書神学校を同志と創立し、詩篇を熟読して祈ることを伝えましたが、実践した皆様には大好評でした。IGMの新年聖会において、第一コリント一三章8節の「愛は絶えることがない」との招きに、きよめの恵みを頂きました。総理は、

沖縄宣教の重荷を持たれ、私は実状をお伝えしました。朝比奈寛先生が調査に来られ、一緒に車で全島をまわり、その一箇所に、BTCを卒業された金城伸子先生が派遣されました。56年前に創立した沖縄福音連盟に、神の教会とイムマヌエルも参加しました。今年の新年聖会は56回目、イムマヌエルと神の教会が当務し、講師に笹代昭夫先生をお招きしました。引退された中村先生も共に担当しました。中国宣教の重荷はありましたので、いのちの水計画の実行委員として中国に聖書を届けました。森山諭先生とは、原理との戦いで奉仕しました。また韓国の教会成長を学ぶために時を用いました。キャンパス・クルセードでは、早天祈祷、徹夜祈祷をご指導頂きました。刑務所伝道には開拓の時から協力し、今も続けています。退位なさる天皇には、宮中にて瑞宝双光章を頂きました。ベストセラールとなった「愛と死のかたみ」の死刑囚の山口氏とも交わりがあり、手紙による伝道の成果の証しとして感謝しています。沖縄宣教の深みのため、尾山令二先生の門をたたきました。「神の愛と恵みによるリバイバル」の論文で、ルーサライス・バイブル・ユニバーシティーからドクター・オブ・ミニストリーを頂きました。「五重の福音による純福音化」の幻をにかけて祈っています。西郷隆盛の私学に10年いて、「敬天愛人」を聖書からのものと確信しています。

### 同窓生の近況

40期生

王寺教会●田辺宣恵



神学院卒業後、名古屋7年のご任命の間にSIBS、APNTSで学び、結婚してケニア12年、京都西3年、そして現在の王寺教会に来て3年が終わり、4年目に入ろうとしています。これまで多くの方々にお祈りをいただき、ご支援いただき、主の憐みでここまで守られてきたことを本当に感謝しています。今年高校3年生になります息子と小学校6年生になります娘もこの土地に少しずつ慣れて、元気に守られています。

神学院4年間は霊的に多くのお取り扱いをいただきつつも、楽しく、懐かしくもあり、牧師としての基礎を築いていただいたところであり、先輩、後輩とも普段会うことが叶わなくとも、共に主にあって戦う同志のような思いを持ち、常に励まされています。

神学院卒業後は3年以上同じ所に留まることなく、ドタバタと駆け抜け、がさつで成長の乏しい者であることを反省しつつ、日々主の憐みの故に、末席におらせていただいています。今年の聖句は「永遠の腕が下に」(申三三・27)です。

### 神学院スタッフ…恵みの想起

#### 刈り入れは多い

図書館 新垣重夫

前回、利用者あつての図書館について書きました。僕は図書館の奉仕が許される限り続けたいのですが、この個人的な勝手な論理から言っても、今後の宣教を考えると、献身者の興起は急務です。

そこで提案をしたいのですが、信仰者一人ひとりに「わが教会」はあるはずですが、そこで、「わが教会の後継者はわが教会から」を、教会としても群れとしてもモットーとすることはできないでしょうか。イエスは、これぐらいの自己中心は微笑んで見てくださるのではないのでしょうか。

僕は今年誕生日が来ると82歳となります。振り返って伝道者生涯は最高でした。苦勞・貧乏も決して不幸ではありません。今後の献身者興起を望みます。

### 学苑だより



●入學式・始業礼拝は、4月6日(金)午前10時30分開式です。

●創立70周年記念改修工事は第2期工事に入ります。本館耐震対策、旧オルガン棟など不利用建屋の解体、駐車場整地が含まれます。

●並行して、新入生が入寮予定の家族寮の内装も行っています。

●年会で旧女子寮棟の今後について検討され、前向きな方向性が示されました。メンテナン委員会では具体案の検討に入りました。

●後援会から、70周年記念の感謝献金プロジェクトのお申し出をいただき、信徒の皆さまの熱い信仰に身の引き締まる思いです。

●後援会は世話人更新の時期になりました。ご協力をお願いします。

●ウーリー(甲斐犬)が12年4か月の生涯を終え静かに息を引き取りました。番犬としてよく吠え、本心に頑張ってくれました。

●神学院祈り会は10日(火)です。

### サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。2月の会計報告をさせていただきます。

2月分支援実状  
〔今年度毎月献金目標〕  
¥2,000,000

教会員による  
「神学院サポート献金」  
¥705,725  
教会団体による「神学院献金」  
¥441,413  
合計¥1,147,138  
その他の献金(一時・特別)  
¥122,050

・振替：00230-0-10138

# 公報

## 本部通達

「話し合ったり、論じ合ったりしているうちに、イエスご自身が近づいて、彼らとともに道を歩いておられた。」(ルカ二四・15)

年會を越えて、イースター聖日をもって新しい年度の営みに入りました。復活の主のご同行を信じ、とくに異動や変化のあった教会には格別な主のみ助けが加えられますようお祈りいたします。

### ■本部(会議)

2日(月) 教団運営委員会

年會において、以下の方々に辞令が交付されました。(括弧内は今年年會の任命地)

### ▽教職辞令

- 大場 広子師(岐阜教会)
- 小島 聡師(沼津教会)
- 小林 佳師(王子教会)
- 薦田 由理師(グローバル・ユース・ミニストリー派遣)
- 中西 正道師(八王子教会)
- 前里 達実師(藤枝教会)
- ▽教職試験補辞令
- 松尾 信子師(立川教会)
- ▽定任伝道師辞令
- 伊藤 安司師(深川教会)
- 高木 暁子師(神学院教会)

### 《引退について》

年會において、以下の先生方の引退が発表されました。貴いご奉仕に心から感謝し、また今後のご

生涯に祝福をお祈りしましょう。

熊谷 邦男師

熊谷 ルツ子師

佐藤 千恵師

須藤 恵子師

金城 伸子師

### 《辞令》

池田光重兄(千葉教会)を総務局経理部員(会計システム移行検討担当)に任じます。  
2018年3月14日  
教団代表 内山勝

### ■国内教会局(会議)

3日(火) 全国教会主事会  
於・本部会議室

### 《春の教区会日程》

- 9日(月) 10日(火) 中京
- 16日(月) 神奈川、沖繩
- 16日(月) 17日(火) 中国、南九州
- 17日(火) 北関東、東関東、静岡
- 23日(月) 東京
- 23日(月) 24日(火) 北越、四国、北九州
- 24日(火) 近畿

### 《月例支援金について》

今年度の教会月例支援金の申請は今月末が締切となります。申請を予定している教会は、申請書を国内教会局までご提出ください。

### 《第4回カナ・フェロシップ》

7日(土) 於・中目黒教会  
午前11時〜午後3時30分  
午前の部の「結婚について考えるセミナー(水谷潔師)」は事前申込不要で自由に参加できます。

### ■世界宣教局

▽年會には薦田緑乃宣教師、平瀬義樹宣教師、鹿島義喜・理香宣教師、薦田康毅・由理宣教師、富澤香宣教師など、多くの宣教師が出席でき、感謝でした。

▽ケニアのテヌウエク病院(薦田就子宣教師)では2月9日夜に火災がありました(詳細は6〜7頁参照)。病院機能の完全な回復のために祈りください。

▽富澤香宣教師は昨年9月からの帰国巡回報告を終え、4月16日ザンビアに向けて出発します。報告の機会を設けてくださった教会、聖会に感謝いたします。

▽薦田康毅、由理宣教師は4月からグローバル・ユース・ミニストリー(GYM)に派遣されます。まだ巡回奉仕が可能な場合もあります。お招きしたい場合は、先生と直接ご連絡をお願いいたします。

▽2018年は局として宣教訪問団は送りませんが、教会単位、グループなどで宣教地を訪問することは可能です。その場合は、現地の宣教師と十分な連絡をお取りくださるようお願いいたします。

▽局長は4月16日から27日まで、ケニアとザンビアを訪問します。

### 《IWF関係》

▽アンドレア・スワウトアウト宣教師、ブランドン・久芳宣教師はそれぞれ、4月頃、再赴任の予定です。アメリカにおいて目標額が満たされ、今期も日本の働きができるように祈りしましょう。

### ■教育局

### 《信徒伝道者認定》

年會で、信徒伝道者資格の更新・新規認定がなされました。

### (更新)

- 池田 光重兄(千葉教会)
- 小原 一夫兄(浜松教会)
- 竿代 丈夫兄(立川教会)
- 山城 明兄(那覇教会)
- 渡辺 明治兄(北九州教会)
- 田中美枝子姉(中目黒教会)
- 中山 朝雄兄(中目黒教会)
- 阿部 妙子姉(別府教会)
- 山田由紀子姉(四日市教会)
- 額田 昭兄(船橋教会)

### (新規)

- 齋藤 純雄兄(深川教会)
- 山口 松子姉(中目黒教会)

### 《青年課》

- 9日(月) 青年課運営委員会
- YS実行委員会 本部会議室
- 4月21日(土) 10時〜16時
- (スタッフ・トレーニング・キャンプ)
- 5月3日(木) 4日(金)

会場・聖宣神学院

参加費 3,500円

(交通費補助あり)

申込締切 4月8日(日)

### ■信徒局

3月16日(金)に運営委員会が本部で開かれ、新設の局の踏み出しがなされました。今後の働きの祝福をお祈りください。

### 《女性部》

2日(月) 女性部運営委員会

### ■聖宣神学院

▽春の入学審査結果  
以下の4名が合格されました。  
中尾敬一兄(イムマヌエル青森教会出身、修了者コース)

藤井佳代子姉(東京フリー・メンジスト小金井教会出身、聴講)  
大村真実姉(都築ニュータウンチャペル出身、聴講)  
矢代由有姉(イムマヌエル高津教会出身、聴講)(男女別・ABC順)

▽入学式・始業礼拝のご案内  
4月6日(金) 午前10時30分から。ご臨席くださる方は教会の先生にお知らせください。

▽インターン実習教会は次の通りです。受入れ教会に感謝します。  
金成星美姉(東京フリー・メソジスト八王子中野教会)  
大谷のぞみ姉(白鳥教会)  
▽教会実習は8日(日)から開始します。

▽神学院祈り会 10日(火) 午後6時から、本部会議室で。  
▽同窓会幹事会 5月1日(火) 午前10時30分から・本部会議室

### ■「祈りのネットワーク」

写真や祈りの課題の提出をお願いします。(郵送の場合は久留米・吉村和記師へ、メールはinori@immanuel.or.jpまで)

## 消息報告



▽小川伴子師(別府教会)のお父様、高橋隆昭兄(板橋教会員)が、去る2月17日(土)、85年余の地上生涯を全うして天の召しにあずかられました。ご遺族に主の慰めをお祈り致します。  
教報PDFパスワード 2312